

平成27年度 鳥獣被害対策技術情報 第1号

(平成27年5月28日)



6月の鳥獣被害対策



福島県農林水産部農業振興課

夏野菜やオウトウなどが間もなく収穫の時期を迎えます。それに伴い、野生鳥獣の農作物被害が増加してきます。早めの対策を心がけましょう。

また、ツキノワグマは人身被害の恐れもあります。特に、早朝や夕暮れ時に林縁部をはじめ出没の可能性が高い場所での農作業は避けましょう。

1 夏野菜の対策

山林の食べ物が少なくなる6月以降は、野生鳥獣にとって各地で栽培される夏野菜は魅力ある食べ物になります。ジャガイモや果菜類は特に注意が必要です。これまで被害にあっている場合やほ場周辺に野生鳥獣の痕跡が認められる時は、早めに周辺のヤブ刈払いや防護柵の設置を進めましょう。

被害に遭ってからの対策実施は、鳥獣の食べようとする意欲が旺盛になるため、効果が薄らいでしまいます。

2 オウトウのハクビシン対策

オウトウは収穫期になると、ハクビシンによる食害が各地で見られます。例えば、果実の軸だけが樹木に残っていたり、樹木のそばに糞があった場合などはハクビシンによる被害の可能性があります。

雨よけ施設の側面を地際との隙間なく防鳥ネットなどで覆っても侵入の痕跡が認められる場合は、施設周囲に電気柵を地面から10cm間隔で3段（各段ともプラス通電）張ると侵入防止効果が高まります。

3 ツキノワグマによる人身被害の回避

ツキノワグマが生息する地域では、早朝や夕暮れ時に林縁部の農地で作業することは避けましょう。特に、これまで、農作物被害が発生したり痕跡のあった農地周辺は危険です。やむを得ず作業しなければならない場合は、クマの潜んでいそうな場所に向けて追い払い用の花火を打ち上げたり、鈴を鳴らすなどしてから作業を始めましょう。

なお、降雨や霧が発生している時は、明るい時間帯でも出没する可能性が高まります。クマは、決して夜行性ではありません。

〈試験研究情報〉

■福島県農業総合センター（企画経営部）のイノシシ調査結果（平成26年度）

1 猪苗代町などで行ったイノシシの行動調査では、季節移動が見られました（図1）。

これまでは30cm以上の積雪深の期間が70日以上ある地域での生息は難しいといわれてきましたが、多雪地帯でも比較的積雪の少ない場所へ移動しながら冬を越す個体がいることが確認されました。

2 集中して活動する場所があり、夏季に日陰となるススキ群団や冬期間積雪の少ない常緑針葉樹林植林（スギ林など）を多く利用していました。また、山林を中心に活動する個体、水田や畑地を積極的に利用する個体が確認されました。（データ省略）。

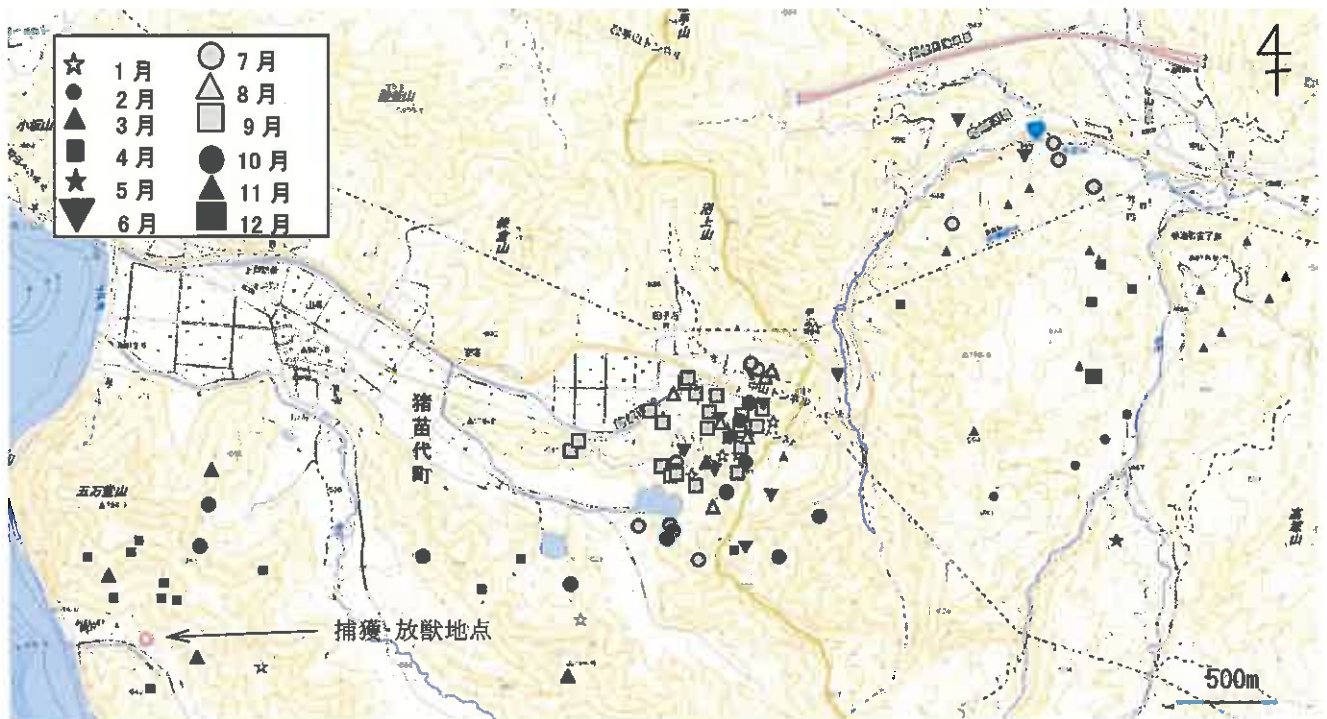


図1 猪苗代個体における推定位置の推移(2014年)

テレメトリー調査により三点法で位置を推定。◎が捕獲・放獣地点。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>